

氣迫と闘魂の決勝卓観戦記

◎馬場裕一

決勝戦東1局5巡目、それまで軽快に摸打

を続けていた荒正義の動きが止まった。

手広く構えるなら

「切りか

「ツモ」

「ドラ」

「白」

「青」

「緑」

「赤」

「黒」

「紫」

「黄」

「白」

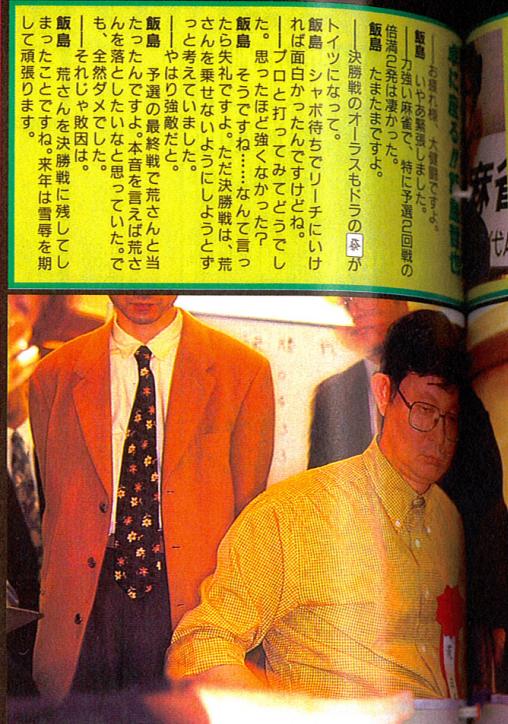
「青」

「赤」

「黒」

「紫」

- 【最強戦決勝卓ドキュメント】**
- 開局 荒家・加藤勝久、南家・荒正義、西家・綾辻行人、北家・飯島哲也。
 - 東1局日本場 南家・荒が東家・加藤から1300点（リーチ）を和了る。
 - 東2局日本場 南家・綾辻・東家・荒、北家・加藤の三軒リーチ。めぐり勝負に荒が競り勝ち、4000点オール（リーチ・ツモ・ダブ東・ドラ1）をツモ和了る。
 - 東2局1本場 流局直前に東家・荒が2600点オール（リーチ・ツモ・ピンフ・ドラ1）をツモ和了る。
 - 東2局2本場 西家・飯島が自風の四番を仕掛け、3900点（ツモ・ドラ2）を南家・綾辻から和了る。
 - 東3局日本場 西家・加藤の三番単騎リーチに南家・飯島が一発で打ち込み、加藤が5200点（リーチ・ツモ・ドラ1）を和了る。
 - 東4局日本場 南家・加藤がア巡目にリーチするも、加藤の一人テンパイのまま流局。
 - 南1局1本場 東家・加藤、北家・飯島の二人テンパイで流局。
 - 南1局2本場 西家・綾辻が四番をカム。リンシャン牌でテンパイし即リーチ。次巡、北家・飯島がリーチ、東家・加藤も親満のテンパイまでこぎつけるが、綾辻が8000点（リーチ・ツモ・カンドラ2）をツモ和了る。
 - 南2局日本場 西家・飯島の先制リーチをかいくぐり、北家・加藤が12巡目にリーチ。南家・綾辻からもリーチが入るが、加藤が8000点（リーチ・ツモ・タンヤオ・ピンフ・ドラ1）をツモ和了る。
 - 南3局日本場 西家・加藤が終盤に2000点（ツモ・ドラ1）をツモ和了る。
 - 点数申告 東家・飯島11400点、南家・加藤31500点、西家・荒39200点、北家・綾辻17900点。
 - 南4局日本場 トップ目の西家・荒。リヤンメン、カンチャンをチーしてクイタンで逃げ込みを図る。南家・加藤もマンスのホンイツで高目満貫（ダブルホンイツ）の逆転手に育てるが、荒が競り勝ち、加藤から1000点（タンヤオ）を和了り、初優勝を決めた。



第3位・綾辻行人さん。名人戦に続き決勝進む。予選トップ強道も、決勝では序盤に恵まれず。トライ系が多くて、毎回なんぞんな手なんだってズッコかれてました。

第4位・飯島哲也さん。最強戦史上、読者代表として初めて本大会の決勝卓に座った。ケレーン味のない善段筆麻雀で数々の豪傑を蹴散らし、その実力を強烈にアピールした。

準優勝・加藤勝久プロ。予選最終戦で大マクリを決め決勝進出。決勝でも大量リードの元を後一歩まで追いつめた。「東2局で変にまわって荒さんに4千オールをツモられたのが…」



イラスト●日高トモキチ

決して本筋にはなかったが、
状況をどうぞよろしくお譲り下さい。
それがなぜかまた「アプローブ」
も、全然ダメでした。それから、
それがなぜか敗因は、
飯島 荒さんを決勝戦に残してしまったことですね。来年は雪辱を期して頑張りますね。

3面張で即リーチ。安自引のツモで引き、3面張で見切りが正解のように映る。これが手役の見切りに関しては天下一品と言われる荒の手筋なのか。結果は3巡後にツモを引き、2・3・4の三色を狙って荒の見切りが正解のように映る。しかし15巡目のツモが「あ」だった。最終的にはツモでツモ和了るのだが、裏ドラが「あ」で2600点オール止まり。2・3・4の三色を狙っていたいのは親満の和了りに仕上げていた可能性があったわけだが、果たしてそれは結果論。レバキリしているのは、この局を境にしてもうラス前まで（点牌上守備に重点を置いたところがあるが）荒の和了りが見れなくなつたということである。代わって他家3人の手が動き出した。

読者代表の飯島哲也が自風をボンして、